

「突然死んだ」：戦慄すべき COVID ワクチン暴露の、生公開映画

<https://www.infowars.com/posts/died-suddenly-watch-live-premiere-of-groundbreaking-covid-vaccine-expose/>

Infowars.com

November 21, 2022

⇒ドキュメンタリー映画が、人類史最大の、今起こっている大量ジェノサイドの真実を暴露する。

Stew Peters ネットワークによる、戦慄すべきドキュメンタリー『突然死んだ』は、過去2年間、グローバル・エリートによって推進された、実験的 COVID mRNA ワクチンの、恐ろしい効果と結果を調査した。(映画 “Died Suddenly” は約 1 時間 8 分続く。)

[訳者 Greatchain] これは現時点 (11/22 夜) で、すでに視聴者数 56 万人となっているが、日本人ではまだ少ないと思われるので、拝借して紹介する。

日本語訳はついていないが、映像だけでもほぼ想像できるであろう。恐ろしいことは、死者を含め被害者の数が、想像をはるかに超えてことである。この映画で最も目立つのは、ワクチンによる「血栓」blood clots の被害だと思われるが、その生々しい映像とともに、多数の医者「こういうものを初めて見た」という体験談が、驚きと共に語られる。mRNA ワクチン接種の前には、ほとんどの人が知らず、そのために長い間、悲惨な事実が隠されていたと思われる。ワクチンによる症例は多様だが、特に癌が指摘されており、次には miscarriage (流産、異常妊娠) が強調されている。しかしこれは想像だが、若い女性の不妊が最も多いのではないだろうか？ これはワクチンに関連付けることができず、カウントしようがない。人口削減の最も成功したケースは、多分、不妊ではなかろうか？

そしてこの映像で多いのは、そのタイトルにある、特に若くて健康な人々の突然死である。これについては何度か、我々のサイトで紹介し、「朽ち木倒し」と呼んだことがある。その例が相変わらず増え続けていることが、ここでわかる。放送中のキャスターや、運動選手が突然、倒れることが多いのは、この人たちが撮影される機会が多いからである

う。倒れて死んでも、知らされないまま、隠されるケースが多いと思われる。この映画の撮影舞台はアメリカだが、この事情は、ワクチンの普及した世界全体で同じであろう。

https://twitter.com/i/broadcasts/1OyKAVqbvayGb?ref_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Ctwterm%5E1594828053980807169%7Ctwgr%5E4a78dc9da247f7114e8a9cab0bb1efdec3c1da5%7Ctwcon%5Es1_&ref_url=https%3A%2F%2Fwww.infowars.com%2Fposts%2Fdied-suddenly-watch-live-premiere-of-groundbreaking-covid-vaccine-expose%2F

以上をクリックしてご覧いただきたい。

もう一つ、ついでに同じ関連の Infowars ニュースを紹介する。これは被害者が幼児なので、話題として悲惨だが、企まれたかのような象徴的な事件として受け取れる：――

これをどう解釈する?――ワクチン宣伝のための、かわいいポスター坊やが突然死

<https://www.infowars.com/posts/cant-make-this-up-toddler-poster-boy-for-vaccine-campaign-dies-suddenly/>

⇒4 歳児の健康が、不思議な病気が起こって徐々に、そして突然、悪化した。

国家的なワクチン・キャンペーンに出ていた、アルゼンチンのある少年が、今月早々、4 歳で突然死んだ。彼の母は、息子の状態を、医者たちが誤診したあと、医療の不手際によって起こった非難している。

サンチーノ・ゴドイ・ブランコ、4 歳、は 11 月 4 日、悲劇的な死を遂げた。検死の結果、死因は「両側性肺炎」と判明した。

サンチーノは、たまたま、アルゼンチン厚生省の、ポリオ、はしか、おたふく風邪、風疹と戦う、国家的なワクチン接種キャンペーンに出演しており、「最新式ワクチン」を推奨するポスターに登場していた。

さまざまなアルゼンチンの新聞は、サンチーノの母親は、息子が病気になったとき、医療を受けさせようとしたが、単なるインフルエンザだと言われ、家に送り返されたという事情を、細かく説明している。

報道によると、サンチーノの健康は、次第に、それから突然、悪化し、最初は「発熱性の喉頭炎」と診断されたが、後には、「胃小腸大腸炎」を患っていると告げられた。

「血清」を与えられたあと、サンチーノは家に帰されたが、後に嘔吐し続けた。

「彼の状態は弱っていた。彼は何も食べようとせず、母の身体にすがりついていたが、まだ話すことはできた」と、アルゼンチン最大の新聞 Clarin は報じた。

「しかし症状は続き、悪化していった。そのため木曜日に、彼らは医療センターの Dr. Raul Larcade のもとに返った。数時間後、この小さい少年は「両側性肺炎」で死んだ。

サンチーノの早すぎる死が、ワクチンによるものかどうかは不明だが、彼の死は、いろんな類似の症状と同じく、COVID ワクチン運動が始まって、数か月間に観察された一連の、突然の予期せぬ死として起こっている。